

星空

20240415

エリー



目次

本文	1
書いた経緯	2

本文

ダダダダダーン。

鳴り響く銃声の中、僕は命を賭けて走り抜けた。右手には7色に変わる完全自動制御のライトがある。

国土は戦場と化して、人々は長らく閉じ籠っていた。

しかし、コンサートの開催を告げる電波が届いたのだ。

「みなさん、約束を果たす時が来ました。ライトを持って、あの場所へお越しください」

畏かもしれない。それでもただ死ぬよりはいい。迷いはない。

会場につくと、まだこんなに人が生き残っていることに驚いた。

みんなライトをもっている。平和だったころに手に入れたもの。今では入手できない。つまり、仲間の証だ。

疑惑は期待に変わっていく。

人々が席に着き、ライトが消える。静まり返った会場に、音楽が流れる。

暗闇の中、彼らの登場を待ち望んだ。

4人の人影が揺れて、照明がついた瞬間、激しい揺れを感じる。

悲鳴が上がり、闇になる。

発電所がやられたのだろう。

もうだめなのか。ここまでなのか。あきらめかけた僕の目に、1粒の灯りが見えた。

手動でスイッチを入れたのか。その手があったか。

僕は慌てて色を合わせる。

周りも気づき初めて、辺り一面淡い水色に染まる。

アーティストが歌いだす。

ファンのコーラスが重なる。

外は戦場。いつ瓦礫の下敷きになるか分からない。それでも歌は止まない。

機械に頼らなくても、僕らは自分の手で希望を生み出せる。

さあ、反撃しよう。

書いた経緯

ライブビューイングで、華麗なライトさばきで手動変更。

吹いた (*t 艸`)

エリーは 2022/05/22 のドーム、ライト変えるのにいっぱいいっぱいでも覚えてない。

さすが猛者は違う！

華麗なライトさばき！

パーって一斉にライトの色が変わるから、慌てて合わせたことを思い出して吹いた。

全自動化された世界で、古参の猛者が手動計算で動かすサイバーパンク浮かんだから。

こうさー、未来のコンサートは、ライトの制御があたりまえになっているの。

それで、戦闘が起きて、発電所が壊される。

ライトの電源は電池だけど、制御はされない。

もう無理だ。

コンサートを中止するしかない。

そんな状況で、手動時代を知ってる古参のファンがライトを灯す。

周りが気づいて、手動で同じ色に変わっていく。

揺れるライトの中で、アーティストがアカペラで歌いだす。
ファンのコーラスが重なる。

外では激しい戦闘が繰り広げられてるけども、会場では平和を願って歌が響いている。

そんなストーリーを思い浮かべた。

ラルクの「星空」とか似合いそう。

掌編にまとまるかな？

星空20240415

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
